

会 議 録

| | |
|--------|--|
| 会議の名称 | 平成26年度 第2回 富士見市スポーツ推進審議会 |
| 開催日時 | 平成27年2月2日（月）19時30分～21時00分 |
| 開催場所 | 教育委員会 会議室 |
| 出席者 | 山口靖雄会長、大竹ミイ子委員、加藤連治委員、天野豪雄委員、 佐藤俊博委員、久米原明彦委員、神谷和義委員 アドバイザー（作野誠一早稻田大学准教授） 事務局（生涯学習課：友光課長、大堀副課長、高見主査） |
| 欠席者 | 谷澤誠委員、福満浩一委員、加光直美委員 |
| 会議次第 | 議事 （1）協議事項 ①市スポーツ推進計画の策定にかかる市民アンケートの調査結果（速報） について ②スポーツ推進計画の考え方について （2）その他 |
| 会議資料 | ①市スポーツ推進計画の策定にかかる市民アンケートの調査結果（速報） について（資料1） ②スポーツ推進計画の考え方について（資料2） |
| 公開・非公開 | 公開（傍聴人 0人） |
| 会議録確認 | 山口靖雄会長 |

会議内容

- 1 開 会 生涯学習課：大堀副課長
- 2 あいさつ 山口会長、生涯学習課長：友光

3 議 題

（1）協議事項

- ①市スポーツ推進計画の策定にかかる市民アンケートの調査結果（速報）について

（事務局から説明）

事務局…昨年12月2日、住民基本台帳から無作為に抽出した16歳以上の市民1,000人の方に、スポーツ推進計画にかかる市民アンケート調査を発送した。
回答期限は12月18日までとなっていたが、年末まで返信されてきていることから1月5日で締め切った。回答は330通、回収率は33.0%となった。

事務局…今回は速報としており、特徴としては、回答者が高齢になるほど回答率が高かった。高齢者ほど自分の健康やスポーツに関心を持っていることが伺える。

事務局…問5の健康状態であるが「健康である」「まあまあ健康である」が約9割となっており「あまり健康でない」「健康でない」が約1割となっている。

事務局…このほか、各設問の回答状況については事前に資料を配布させていただいているので確認いただきたい。

また、今回のアンケート調査にあたっては分析を作野先生にお願いしているので速報の時点でお気づきの点があればご助言をお願いしたい。

作野…今回のアンケート調査を通して富士見市の特徴を分析するにあたり、全国調査として内閣府が体力・スポーツに関する世論調査を3年に1度実施していて、同じような項目があるので比較して気づいた点を述べる。

全国調査は対象が20歳以上であり今回の調査と年齢層が若干違うが、健康状態の項目では、今回の調査で健康が約9割、全国調査が87.2%であり、概ね一緒であるが、次の体力になると「自信がある等」本調査が約7割であるのに対し、全国で見ると61.8%であるので、比較的健康な方が多いのではないかと想定している。

作野…問9は、スポーツを行う頻度であり、これは一番重要な指標である。

政策目標にも使用され、週1回以上などは国の目標として定められており、各都道府県の目標にもなっている。直近の全国調査では週1回以上が、47.4%であり、これに対し富士見市は、41.4%と頻度としては全国より若干低い。

今後、政策目標として何%にしていくかは今後の議論になる。

作野…問11の活動時間であるが、平日に活動している方が多くいる。

作野…問12の活動場所であるが、市内の公園広場が多いが、一方市外でされている方が25%と、今回の調査対象の4人に1人が市外でスポーツをされている現状がある。

作野…問14の現在行っているスポーツであるが、全国調査の1位から述べると「ウォーキング」「体操」「ボウリング」「ランニング」「水泳」の順番であるが、富士見市では、「ウォーキング」「体操」「ゴルフ」「ジョギング・ランニング」「ヨガ・気功・太極拳」の順であり、ゴルフやヨガ・気功・太極拳は潜在的にやられている方が多いと想定する。

作野…問16のスポーツを行わない理由は、全国調査では「仕事が忙しい・時間がない」や「高齢だから」など、その方自身の問題となっているが、富士見市では「仕事が忙しい」に続いて「機会やきっかけがない」というのが第2位である。これは条件が揃ったらやりたいという方という見方もできる。

もしかすると潜在的ニーズがあることが読み取れるのではないか。

作野…問18のこれからやりたいスポーツであるが、全国調査では「ウォーキング」

「体操」「水泳」「ランニング・ジョギング」「テニス・バドミントン」の順になっている。富士見市では、「ウォーキング」「ヨガ・気功・太極拳」「体操」「水泳」「登山・ハイキング」の順になっている。「ヨガ・気功・太極拳」「登山・ハイキング」が特徴的ではないかと感じている。

作 野…問19の今までにスポーツ大会、教室などに参加したことはあるかについては、「知らなかった・参加しなかった」を合すると64%であり、3人に2人は参加経験がない、あるいは知らないという結果になっている。

作 野…問21の「どのように知ったか」であるが、広報や回覧板という伝統的な媒体や口コミということが重要な役割を果たしている。問23も同じような傾向。

作 野…問24のスポーツ情報で不足しているものであるが、多いのが「場所や施設についての情報」「行事大会イベント情報」「スポーツクラブや同好会」など、基礎的なスポーツ事業と言われているが、そのような情報が足りないとの回答であった。

作 野…問25のボランティアについては、笹川スポーツ財団が行っている調査があつて、11.4%という数字である。その調査よりも若干低めで「参加したことがある」は約1割である。

作 野…問29のクラブ同好会に加入したいかについて、これも重要な指標であり全国調査では30年位行っているが一度も20%を超えたことがなく、16.1%であり、富士見市の場合も10.6%と低いのでこれも課題であろうと思う。

作 野…その下に加入したいかという数字があり、加入したいと思っているが加入していない人、これは全国調査では38.7%で富士見市の場合は29.4%となっている。注目してほしいのは「わからない」の回答が意外と多く「情報が少ない」ことが伺える。

作 野…問30の総合型スポーツクラブであるが、「内容を知っている」「聞いたことがる」合すると9.7%であり約1割である。笹川スポーツ財団の調査では、「内容を知っている」「聞いたことがる」合すると約30%である。もちろん市内にないことも要因の1つであろうが、富士見市の認知度が極端に低い。

作 野…同じような傾向が次の問31にも出ており、「入ってみたい」「誰かと一緒なら入ってみたい」という人が、合せて半数弱いるが「分からない」という方も3分の1いる。

作 野…問32の地域スポーツ施設の充実度では、「あまり充実していない」「充実していない」合せて3分の1強であった。「分からない」という方も約半分いる。

作 野…問33のプログラムの充実度のについても、「分からない」人が約7割いる。問34のスポーツ環境で重視する点になると、近くにあるという事が重要で施設までの所要時間が20～30分を超えると、定期的に行かないというデータもある。そのほか「会費が安い」事などの回答も多かった。

- 作 野…問35のスポーツ施設で何を望むか、問36の今後どのような点に力をいれるかについては、全国調査の回答と同じような回答傾向にある。
- 細かい分析はこれからであるが、施設面のニーズがかなり高いことと、スポーツ情報の認知度が低いことなどが、課題として挙げられるのではないかと速報値を通じて感じた点である。
- 会 長…作野先生から分析いただいたが、委員の中で感じた点があれば。
- 会 長…作野先生によると本調査は全国調査と比較しての分析が多かったが、富士見市の特徴的なところで感じた点はあったか。
- 作 野…先に述べたが、施設に関するニーズが多いこと、スポーツに関する情報が全般的に低かったこと、また、クラブライフと言って、身近なクラブに親しむ方が少ないといったところが特徴ではないか。
- 会 長…富士見市はベッドタウンとして発展してきたこと、通勤されている方は、情報も得にくい、地元でスポーツをする時間がないといったことがあるのでは。
- スポーツに関しては行政も情報提供をしていると思うが。
- 会 長…富士見市には小学校が11校区あり、本日出席のスポーツ推進委員の方も含め、各校区に3人ずついる。各小学校を起点にスポーツの啓蒙活動を行っている。
- 日頃そのような活動を行っていても、地域のスポーツ振興、大会参加につながっていない現状があるのではないか。
- 委 員…スポーツ推進委員では、バトテニスという新しいスポーツを啓発しているが、参加人数は徐々に増えてきている。どのスポーツ種目もそうであるが中心的な方がいないと発展に結びつかないと感じる。
- また、今はスマートフォン等の普及により情報の伝達が早いので、いったん仲間ができれば、比較的継続して参加していただける。
- 例えば、体育協会については競技によってかと思うが、参加者の増員などに取り組んでおられるのか。
- 会 長…体育協会としては年3回、広報紙を全戸配布しその中で活動報告を行うとともに、参加の呼びかけをしている。1月の縄文マラソンや11月のスポーツフェスティバルなど。
- 委 員…スポーツ推進委員は、どちらかと言えばニュースポーツの普及をしている。
- 体育協会はいろいろな団体があるが、各団体でどのような形で参加促進を行っているのか知りたい。
- 会 長…1回の体育協会の広報紙で3団体、年間3回広報紙を発行しているので計9団体、体育協会加盟全体で27団体あるので輪番制で団体の活動報告を掲載している。
- 委 員…スポーツ情報の提供で具体的にどのようなクラブが何曜日に活動しているかという形の情報提供があってもいいのではと思う。

委員…個人的な情報を掲示するのはどうかと思うが、行政の考えは。

事務局…私見の部分もあるが、スポーツ情報について、行政が取り組んでいるもの、体育協会が取り組んでいるもの、スポーツ推進委員が取り組んでいるもの、指定管理者が取り組んでいるものなど、いわゆる「点」となっているので、これを「面」にしていく必要がある。

事務局…地域の少年野球チームに入りたいという問い合わせがあり、結果的に、体育協会にお問い合わせくださいと回答してしまっている。自分たちの情報しか分からないようになっている。市民の方から見れば、どこで取り組んでいようと関係のない話である。

今後においては、こういったところの情報共有を検討していきたい。

委員…スポーツをやりたいといった方が、スムーズに入ることのできるような仕組みが必要である。

会長…一方でジョギングやランニングなど、個人でいつでもできるといった種目もアンケート調査から出ている。

事務局…スポーツ事業について年間計画があり、また、活動クラブ、連盟、協会なども何があるのか一目で分かるものを、現在持ち合わせていないので、今後整理していく必要がある。

会長…こうしたことも今後考えていかなければならないが、PRしていくことも大変なことである。

作野…総合型クラブが出てきた背景に似ている所があり、競技種目で規模の大きい小さいがあるが、新しいメンバーがクラブに入ってくる時はどういう時かという、メンバーの知り合いでスポーツ好きという方が入ってくる。

もちろんいい事であるが、一方で興味はあるがクラブに知っている人がいないので思いのほか敷居が高く入ってこられないという実態もある。アンケートの数字にも出ていたが、スポーツをしたいけれどもできないという方が多くいる。潜在的な参加者はたくさんいるので、そのような方たちの受け皿がないといけないということが、総合型スポーツクラブの背景であるということ。

スポーツ好きな方は知り合いをたどっていくことができるが、そうでない方もたくさんいるということである。

会長…私自身、都内の野球大会の審判を依頼されるが、一人いくらかの参加費を支払って集まってくださいと呼びかけて、知らない方たちが集まり、全員が出場するのを条件に、野球の試合をして楽しむということも行っている。

いずれにしても興味を持っていてチームに入りたいが入るきっかけがないのか、入れないのかどうか、分かりにくいところがある。

委員…アンケート全体の印象としては、年齢層を見ても50歳代以上からの回答が多く、また、スポーツの種目やスポーツ情報を得るパターンとして広報紙や回覧板など

の媒体が多いという話もあったので、そういった方々の回答を念頭に置きながら見ていかないといけないと感じた。

富士見市発祥のバドテニスもやられた方が少ないということであった。今後、定期的に行いたいという質問の中でも回答率としては低かったので1つの方策として、「バドテニスを通じて市民のスポーツを広めていきましょう」という施策に打って出てはどうだろうか。

会 長…行政として広報ふじみを発行しているが、その中にいつでもどこでもスポーツをしたい方は生涯学習課にお問い合わせください…というような項目を入れてみてはどうか。

事務局…募集をしているスポーツ団体の代表者の氏名や電話番号を広報紙に掲載している例はある。また、アンケート回答にあったが、スポーツ情報についてはホームページは人気がなく、やはり紙媒体が人気があるという結果であった。

そういう意味において、定期的に掲載することは大きな効果があるのではないかと考える。

スポーツにおいて、知らない人の中に入っていくことは難しいと思う。そうした中でスポーツ推進委員が知り合いの方等を通じて間を取り持つことは重要ではないか。

委 員…今はスポーツ団体に入っていくには、知り合いを通じてが主流となっている。

委 員…例えば転居して富士見市に来た方などは、スポーツをしたい場合、どこに連絡してよいか分からないのではないか。

委 員…スポーツをさせたいと小さい子どもに募集をかけていると思うが、小さい頃からスポーツを経験させることが大事ではないか。また、私もよく目にするが、スポーツ情報については、アンケートの回答ほど不足していないのではないか。

体協の広報紙の内容もよく見る。見る側の関心をひくように工夫する必要もある。児童、生徒についてもスポーツを積極的に行う人、行わない人の差がはっきりしていて二極化している。

会 長…求人広告をまったく見ない例と一緒にではないか。求人に興味のある人しか見ない。

委 員…放課後児童クラブの担当者にバドテニスを教えた。今後、こうした方々が指導者として子ども達に教えていただければ、すそ野が広がる可能性がある。

会 長…各学校では地域子ども教室などで、子ども達が積極的に活動している。結果近年子どもの体力は上がってきていないか。

委 員…以前に比べると極端ではないか体力は上がっている。特にボール投げが弱かったので指導はしている。

委 員…宣伝媒体の方法としては、私も広報紙を見ることが多い。しかし自分に関心のある記事しか見ない、隅々まで見る方は少ないと思うので、スポーツの特集として記事を掲載することも考えてみてはどうか。

団体スポーツをしてみたいという方がいれば、個人スポーツをしたいという方もいる。アンケート結果で、仕事が忙しいという方などで自分の好きな時間にできるウォーキングやジョギングなどが回答として多かったことが想定できる。以前広報紙で散歩コースなどを特集していた。こうした景色が見られますよ…等魅力があると思う。特集を定期的に掲載するのもよいと思う。

会 長…市で推進しているラジオ体操は。

事務局…市内で活動している団体があるので、そうした方々に集まっていただき情報交換をして普及啓発をしていく予定。また、年に1回程度、皆さんで集まりラジオ体操会をしていきたい。

委 員…クロス集計が大事であると思う。若い年齢層がどのような考えなのか等はクロス集計をしないと特徴が出てこないと思う。今後のクロス集計の仕方によって、特徴が出てくると思う。

会 長…例えば50歳以上と50歳以下では意識が違うとか分析することはできるのか。

事務局…今回の調査では各年齢層ごとに区切っているなので、年齢層ごとの意識の違いなどは分析できると思う。

会 長…今回のアンケートでは若い年齢層の回答率が低かったので、どこまで分析できるかになる。

委 員…健康体操を行っているが、健康に関心があるのは40歳代以上であり、若い年齢層の方は募集をしても入ってきいてくれない状況である。

若い方は就労されている方が多いので、お金を払って好きな時間に好きなスポーツを楽しむ傾向があり、サークルのような組織の活動に入ると、会計など役職をやらなければならない等あり、面倒で敬遠される傾向がある。

委 員…地区体育祭を開催しても、若い方々が参加していただけない状況もある。

事務局…仕事をされている若い方々は、平日夜の9時や10時に帰宅する。そうになると平日はスポーツはできない、休日でも疲れて寝ているというライフスタイルでは、どうしてもスポーツ振興につながっていかない。

作 野…次回はクロス集計をして、分析したい。

会 長…地域性も分析できるのではないか。

委 員…若い世代ということで、学校にアンケートを出すという考えは。

事務局…今後、学校の先生にお願いをして小学校及び中学校にスポーツアンケートをお願いする予定。実施は来年度早々を考えている。なお今年度については市民アンケート調査を中心とさせていただきたい。

委 員…回収率も上がるかもしれない。

事務局…本日、クロス集計の案もお示ししている。次回開催までに報告としてまとめていきたい。

②スポーツ推進計画の考え方について

(事務局から説明)

事務局…県内の先進自治体において既にスポーツ推進計画を策定している所があるので、計画案の骨子を本日お示しした。今後の参考にしていただきたい。

事務局…例えば川越市などは大きな目標として「成人の月1回以上のスポーツ実施率を60%以上とする」や坂戸市では「成人の週1回以上のスポーツ実施率を60%以上とする」など大きな基本目標を掲げ、それを達成するため、基本施策が組み込まれている。

事務局…基本施策の内容としては、ソフト面、ハード面のほかヒューマン（指導者）など様々であり、富士見市においても、市民アンケート調査結果も含め各データに基づき施策を協議していくことになる。

委員…クロス集計については了解した。

(意見交換)

委員…特になし。

(2) その他

委員…特になし

事務局…特になし。次回の審議会は3月中に実施する予定。詳細は後日ご連絡する。

以上